

2015年1月16日

各位

公益財団法人 日本英語検定協会

## 「英検 IBA」4月1日から本格スタート

公益財団法人 日本英語検定協会（理事長：松川孝一、所在地：東京都新宿区、以下、「英検協会」）は、実用英語技能検定（以下、「英検」）と共通のスコア尺度で成績の比較を可能とするテスト、「英検 IBA (Institution Based Assessment)」<sup>\*1</sup>を4月1日よりリリースいたします。

<sup>\*1</sup>「英検 IBA」は、これまで「英語能力判定テスト」の名称で親しまれてきました。詳細は、2014年12月19日付のプレスリリースをご参照ください。（[http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/20141219\\_pressrelease\\_iba-jr.pdf](http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/20141219_pressrelease_iba-jr.pdf)）

### 【「英検 IBA」スタートの背景】

●「英検 IBA」の前身である「英語能力判定テスト」は、2003年より10年以上にわたり、皆様に親しまれてきた団体受験専用のテストです。大学では入学者のクラス分け等に、中学校・高等学校では生徒の英語能力測定や、英検を受ける前の模擬試験としてもご活用いただいております。また都道府県や市区町村といった自治体におきましては、生徒たちの英語力の推移の検証等にご利用いただき、これまで多くの皆様にご愛顧いただいております。

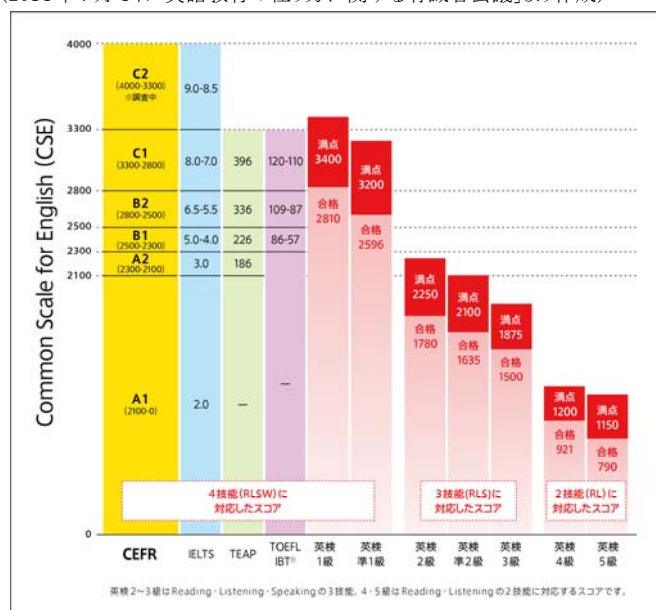
その中で、特に中学校や高等学校の関係者の皆様から、「試験時間を短縮して授業時間内で実施できるように改良してもらえないか」という要望が上がっておりました。従来の「英語能力判定テスト」は50分～55分程度の試験時間を要するため、授業時間内で実施することが難しく、これまでは、試験を実施するために別の機会を設けたり、授業時間を延長する等のご協力をいただいております。このような状況をふまえ、「英検 IBA」は、授業時間内で実施しやすいよう、試験時間を45分に短縮することにいたしました。

●一方で、昨今の英語教育の現状に目を向けますと、グローバル人材の育成の機運が高まっており、幼少期から「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4技能を総合的に習得することが求められています。また入試では、外部の資格・検定試験の活用の動きが本格化しています。

そこで英検協会では、英語学習の初期段階から生涯にわたり、継ぎ目のない一貫したスコア尺度を開発する必要性を認識し、2014年9月1日、一般財団法人日本生涯学習総合研究所とともに、国際基準規格のCEFR（欧州言語共通参照枠）との関連性を持たせたユニバーサルな新しいスコア尺度「CSE (Common Scale for English)」を発表いたしました。現在、CSEをより精緻化された尺度とすべく鋭意研究・開発中ですが、今後は英検協会が運営する各種

### <Common Scale for English (CSE) イメージ図>

参照元：文部科学省「各試験団体のデータによる CEFR との対照表」（2014年7月4日「英語教育の在り方に関する有識者会議」より作成）



テストへのCSEスコアの導入はもちろん、国内外の英語関連の資格・検定試験を運営する各関連機関に協力を仰ぎ、CSEを用いたスコアの統一を目指します。

このCSEスコアのリリースの流れの中で、英検に続き、「英検IBA」にもCSEスコアを導入し、上述の試験時間の短縮等の大幅リニューアルをいたします。これにより、「英検IBA」を英検ブランドのテストファミリーとしての位置づけで、「英検IBA」で得たCSEスコアを参照することで、「英検」受験者は受験級を適切に選定することができます。また、「英検」受験後も、CSE統一スコアを通して定量的に学習の伸長度を確認することができるようになります。

4月1日から本格スタートする「英検IBA」の主な特徴は以下のとおりです。

### 【「英検IBA」の主な特徴】



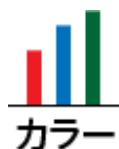
#### ① CSE スコア導入で学習到達度と伸長度を把握

CSE スコアで学習到達度や伸長度を定量的に確認できます。それにより学習者は学習目標の設定に、指導者は指導の目安としてご活用いただけます。



#### ② 授業で導入しやすい「試験時間 45 分」の実現

「英語能力判定テスト」では、50 分～55 分程度の試験時間を要しておりました。それを「英検 IBA」では 45 分間に短縮。中学校や高等学校での授業時間内で実施可能となり、ご利用いただきやすくなります。



#### ③ 成績表のさらなる充実。見やすく、わかりやすく

申込責任者には団体申込責任者用、学習者には個人受験者用の成績表をそれぞれご用意いたします。その内容は、CSE スコアによる受験結果や英検級レベル判定、学習者ができること(英検 Can-do リスト)、さらに分野別学習アドバイスなどを項目別にカラー表示し、より見やすく、わかりやすいものといたします。



#### ④ リーズナブルな受験料

受験者 1 名あたり 500 円(標準価格)といたします。

なお、CSEと「英検IBA」をご活用いただく上での学習者、学校、自治体それぞれのメリットについては、別紙をご参照ください。

「英検 IBA」は、今後ご利用者様のご要望に応じて、様々なオプションをご用意してまいります。詳細は、4 月 1 日のリリースのタイミングに合わせて英検協会ウェブサイト上にてご案内いたします。

今後は、「英検 Jr.」、「TEAP」、「IELTS」等の英検協会の各試験にも CSE スコアの導入を図ってまいります。それにより、英語学習者は、4 技能それぞれの CSE スコアに基づいて自身が伸ばすべき技能を的確に把握し、効率的な学習を行うことができるようになります。こうした取り組みは、わが国における実用英語の普及と向上に寄与することを目指す英検協会の存在意義によるところです。英検協会は、今後も学習者の生涯にわたる成長を支援してまいります。

※<別紙>

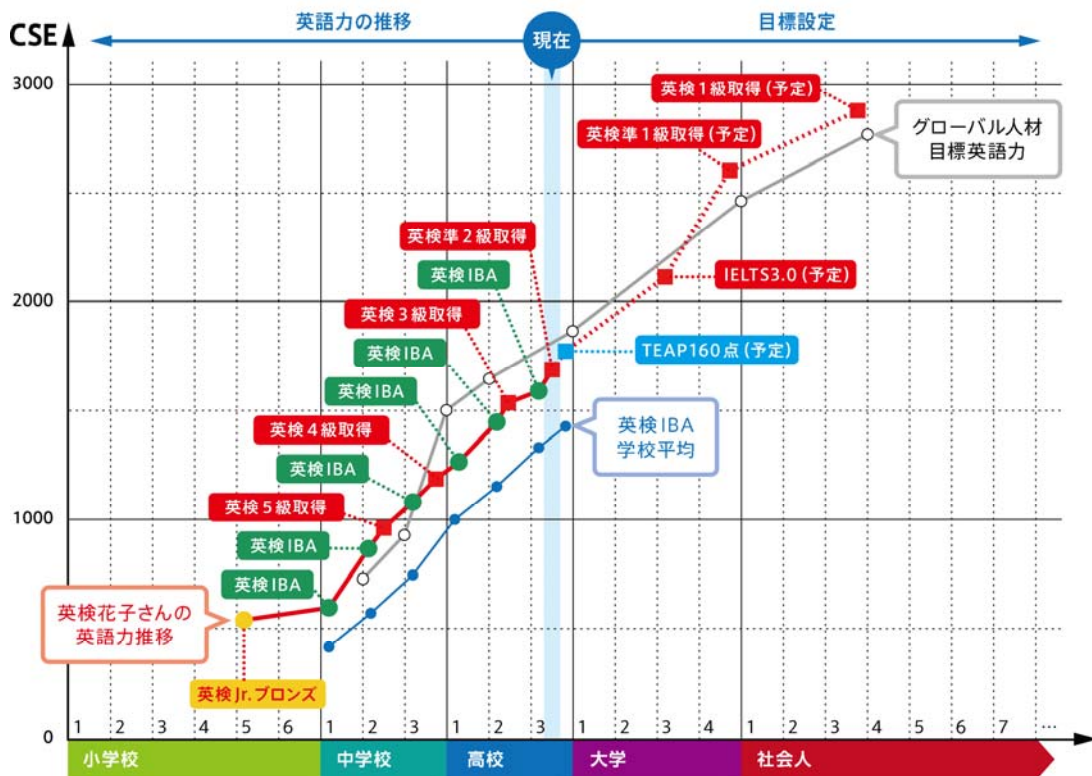
【CSEと「英検IBA」をご活用いただくことでのメリット】

◎学習者のメリット

- 今の自分の英語能力を技能別に把握できます。
- 今の自分の弱点や学習ポイントがわかります。
- 今の自分の級レベルがわかるとともに、次の級までの距離が定量的に把握できます。
- 過去の自分のスコアと比較し、どの能力が向上したかを確認できます。
- 英語能力の向上が確認でき、次への挑戦につながります。

ご活用イメージ（学習者）

【英検花子さん（高校3年生）の英語力推移と目標設定】



- ・英語学習の初期段階から現状の英語能力の経年推移が一目でわかります。
- ・将来の目標達成には現状の英語能力をどう伸ばすべきかが明確になります。
- ・学校平均と比較ができます。
- ・社会人になってグローバルで活躍する人材となるために必要な英語能力と自身の英語能力との比較ができます。

◎学校のメリット

- 適正な検定級が推奨できるので、合格率アップにつながります。
- 合格による成功体験の積み重ねにより、生徒の学習意欲向上につながられます。
- 受験データを活用することで、授業の指導方針が立てやすくなります。
- 個人への学習アドバイスがしやすくなります。

## ご活用イメージ（学校）

【〇〇高校1年～3年英語力向上度数の経年変化】



【〇〇高校3年A組受験級の推奨リスト】

年	組	名前	IBA・CSE	既取得級	確実級	チャレンジ級
3	A	青木英明	3000	2	—	準1
3	A	秋山博之	2900	2	—	準1
3	A	真田幸村	2800	3	2	準1
3	A	徳川太郎	2800	—	準2	2
3	A	皆川三郎	2750	3	準2	2
3	A	戸田五郎	2700	準2	—	2
3	A	四谷花子	2600	4	3	準2
3	A	山田紀子	2600	4	3	準2

- ・卒業年度別の3年間の伸長度が技能別にわかります。
- ・技能別に県平均と比較ができます。
- ・授業方針や新しい取り組みによる成果がわかります。

- ・英検本検定の推奨級がより正確にわかります。

### ◎自治体のメリット

- 各市区町村レベルから学校単位に至るまで、技能別のスコアの傾向を把握し、都道府県レベルで適切な指導方針が立てられます。

## ご活用イメージ（自治体）

【〇〇県3年卒業時英語力の経年変化】



- ・卒業年度別の3年間の伸長度が技能別にわかります。
- ・技能別に全国平均と比較ができます。
- ・自治体レベルの英語能力向上のための方針や取り組みの成果がわかります。